
ロータリー財団委員会

委員長 高原 正次
委員 有岡 啓太

ロータリー財団小委員会

スローガン

2670 地区のロータリー財団と眉山ロータリークラブの
懸案事項について早期解決を目指す。

基本方針

当クラブは創立以来、ロータリー財団に理解を深め、1 人150ドル×会員数を毎年達成しておりましたが、数年前から停止している。これらの理由は下記の通りである。

今年度の目標

一人100ドル×会員数を掲げるが、財団との懸案事項が解決しないときは保留とする。

これらの懸案事項も含め、以前より地区財団委員長やガバナーなどと話し合いを持ち、また前 2016－2017 年度の地区大会において、当クラブより、財団への申し入れを提出しておりますが、未だ返答がありません。今年度の寄付額については、当クラブの理事会において、十分に協議し取り決めるものとする。

理由

当時の財団委員会は、次期役員や委員を決めるのに、委員長や地区役員・委員の知り合いであれば、ロータリー歴や貢献度がなくても、各クラブや理事会の承認を得ず、一本釣りがされていた。その中には、寄付金ゼロの役員や委員などが何名もいた。財団は寄付で成り立っている以上、財団委員会に寄付金ゼロの者が何名もいるというのは、好ましくないと思われる。その事について、地区財団委員会と話し合いを持ったが、「なにもたくさん寄付をしたからと言って、偉くはない、多く寄付をする者は表彰状や盾欲しさに寄付をしているだけである」これらの財団委員の発言から、表彰状や盾の欲しくない者は、寄付をしなくてもいいという事になりますね、との質問に「その通りです。田中作次さんは3億円寄付しても何も文句言わない」との返答であった。これらの懸案事項について、ガバナーや財団委員長と話し合いを持ち、少しずつ改善はされて来たように思えるが、これらの発言や経過について、その後説明がないままである。ガバナーは就任年度に推薦される役員や委員の十分な研修をし、せめて財団委員会の役員や委員は寄付金ゼロというのは避けるべきである。